

良性腫瘍と悪性腫瘍

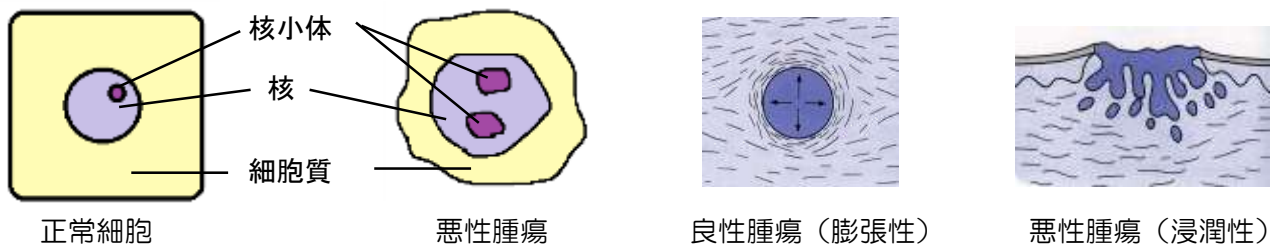
相違点	良性腫瘍	悪性腫瘍
発育形式		
発育速度		
周囲との境界		
脈管への侵入		
転 移		
分化度		
異形度		
全身への影響		

■分化度とは、分化度とは、発生したもとの細胞に似ている（分化している）がどうかということであり、分化度が（ ）ということは、元の細胞と全く違うということである。

■悪性腫瘍では分化度が（ ）ことが多い。

■異形度とは細胞が、正常の構造と異なることをいい、悪性腫瘍では、異形度が（ ）。

■悪性腫瘍では、核は（ ）で輪郭の形は（ ）になりやすい、そのため相対的に細胞質が狭くなる、核小体が（ ）なり数も増えるなどの特徴がある。



転移

■がん細胞がリンパ管の中に侵入し、リンパの流れによって転移するものを（ ）という。

■乳がんが（ ）リンパ節へ、肺がんが（ ）のリンパ節に転移する。

■がん細胞が静脈の中に侵入し、血液の流れによって転移するものを（ ）という。

■胃がん、膵がんなどが（ ）を通じて（ ）へ転移したり、直腸がんが下大静脈を通じて（ ）へ転移したりする。

■前立腺がんや乳がんは（ ）することが多い。

■胃がんなどが胃壁を破って腹腔に種をまいたように転移するものを（ ）という。

■隣どうしの接触している組織に転移するものを（ ）という。

■転移性の脳腫瘍は、90%が（ ）からの転移である。

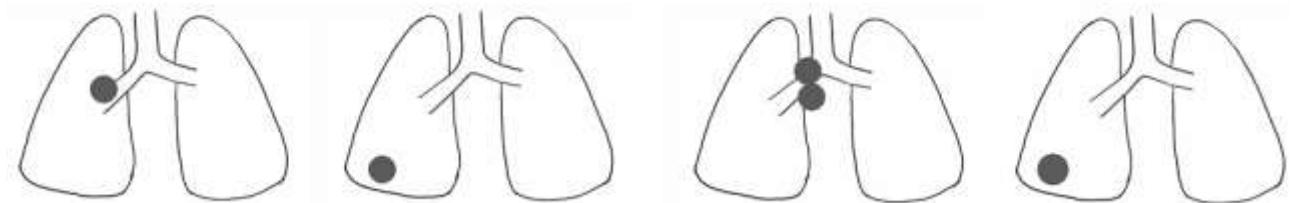
若年者に多い腫瘍

■小児期、若年者に多い腫瘍として、（ ）、腎芽腫（ウイルムス腫瘍）、神経芽細胞腫、髄芽腫などの脳腫瘍、（ ）がある。

原発性脳腫瘍

- 脳腫瘍で最も悪性なものは（ ）である。
- 髄膜腫は境界が明瞭な（ ）の腫瘍である。
- 神経線維に発症する神経鞘腫は、（ ）神経に多いが、顔面神経を圧迫して顔面神経障害を起こすことがある。
- 聴神経鞘腫は（ ）部の発症が多く、大きくなると脳脊髄液の流れを妨害して（ ）をおこす。
- 下垂体腺腫で、下垂体のホルモン分泌が増加すると、（ ）をおこす。
- 下垂体腺腫で、（ ）神経を圧迫すると（ ）障害をおこす。
- 成人ではテント（ ）の腫瘍が多く、小児ではテント（ ）の腫瘍が多い。

肺がん



扁平上皮がん
(肺門部)

()
(末梢部)

()
(肺門縦隔部)

大細胞がん
(末梢部)

- 肺がんで最も多いのは、（ ）である。
- 肺がんで最も悪性度が高いのは、（ ）で（ ）部に多く、進行が速く転移しやすい。
- アスベストの長期吸入によって、何年も経過しておこるものに（ ）がある。

その他

- 扁平上皮がんは（ ）、（ ）、（ ）に発生する。
- （ ）、（ ）、膵臓、肝臓、肺では腺がんが多い。
- 移行上皮がんは（ ）、（ ）に発生する。
- 大腸がんは、食事の（ ）により（ ）傾向にある。
- 大腸がんは、（ ）に最も多く、次いでS状結腸である。
- 腫瘍による死亡数は、男性では1位（ ）、2位（ ）、3位大腸がん（2013年）である。
- 腫瘍による死亡数は、女性では1位（ ）、2位（ ）、3位胃がん（2013年）である。

良性腫瘍と悪性腫瘍

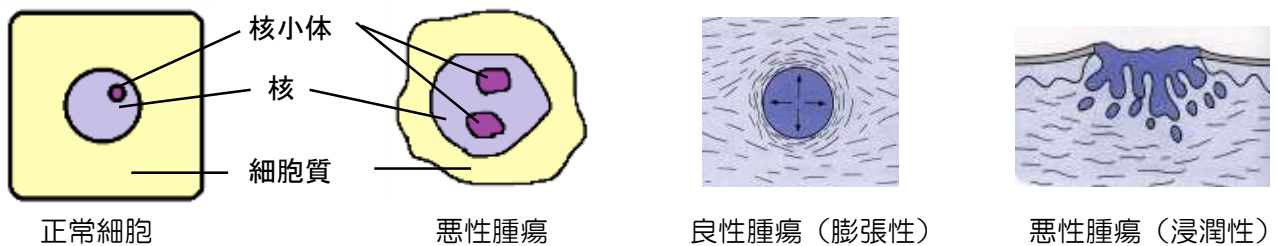
相違点	良性腫瘍	悪性腫瘍
発育形式	膨張性（排圧性）	浸潤性
発育速度	遅い	速い
周囲との境界	明瞭	不明瞭
脈管への侵入	なし	多い
転移	なし	多い
分化度	高い	低い
異形度	低い	高い
全身への影響	小さい	大きい

■分化度とは、分化度とは、発生したもとの細胞に似ている（分化している）がどうかということであり、分化度が（低い）ということは、元の細胞と全く違うということである。

■悪性腫瘍では分化度が（低い(未分化)）ことが多い。

■異形度とは細胞が、正常の構造と異なることをいい、悪性腫瘍では、異形度が（高い）。

■悪性腫瘍では、核は（大型）で輪郭の形は（不整）になりやすい、そのため相対的に細胞質が狭くなる、核小体が（大きく）なり数も増えるなどの特徴がある。



転移

■がん細胞がリンパ管の中に侵入し、リンパの流れによって転移するものを（リンパ行性転移）という。

■乳がんが（腋窩）リンパ節へ、肺がんが（肺門）のリンパ節に転移する。

■がん細胞が静脈の中に侵入し、血液の流れによって転移するものを（血行性転移）という。

■胃がん、膵がんなどが（門脈）を通じて（肝臓）へ転移したり、直腸がんが下大静脈を通じて（肺）へ転移したりする。

■前立腺がんや乳がんは（椎骨に骨転移）することが多い。

■胃がんなどが胃壁を破って腹腔に種をまいたように転移するものを（播種性転移）という。

■隣どうしの接触している組織に転移するものを（接触性転移）という。

■転移性の脳腫瘍は、90%が（肺がん）からの転移である。

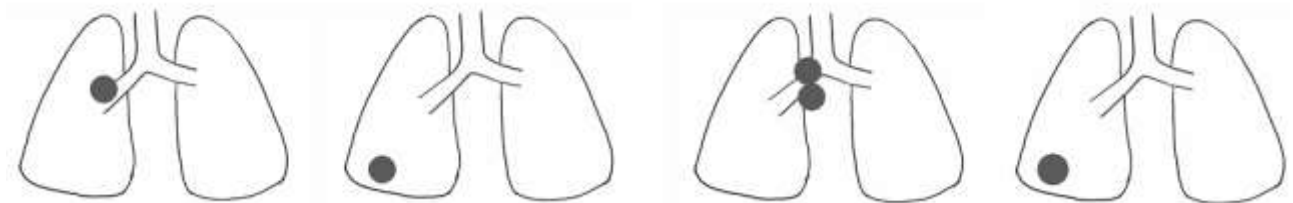
若年者に多い腫瘍

■小児期、若年者に多い腫瘍として、（白血病）、腎芽腫（ウイルムス腫瘍）、神経芽細胞腫、髄芽腫などの脳腫瘍、（骨・軟部腫瘍（骨肉腫、軟骨肉腫、Ewing肉腫など））がある。

原発性脳腫瘍

- 脳腫瘍で最も悪性なものは（ **神経膠芽腫＝膠芽腫** ）である。
- 髄膜腫は境界が明瞭な（ **結節性** ）の腫瘍である。
- 神経線維に発症する神経鞘腫は、（ **聴** ）神経に多いが、顔面神経を圧迫して顔面神経障害を起こすことがある。
- 聴神経鞘腫は（ **小脳橋角** ）部の発症が多く、大きくなると脳脊髄液の流れを妨害して（ **水頭症** ）をおこす。
- 下垂体腺腫で、下垂体のホルモン分泌が増加すると、（ **クッシング病** ）をおこす。
- 下垂体腺腫で、（ **視** ）神経を圧迫すると（ **視神経** ）障害をおこす。
- 成人ではテント（ **上（大脳）** ）の腫瘍が多く、小児ではテント（ **下（脳幹、小脳）** ）の腫瘍が多い。

肺がん



扁平上皮がん
（肺門部）

（ **腺がん** ）
（末梢部）

（ **小細胞がん** ）
（肺門縦隔部）

大細胞がん
（末梢部）

- 肺がんで最も多いのは、（ **腺癌** ）である。
- 肺がんで最も悪性度が高いのは、（ **小細胞がん** ）で（ **肺門縦隔** ）部に多く、進行が速く転移しやすい。
- アスベストの長期吸入によって、何年も経過しておこるものに（ **悪性胸膜中皮腫** ）がある。

その他

- 扁平上皮がんは（ **皮膚** ）、（ **口腔** ）、（ **食道** ）に発生する。
- （ **胃** ）、（ **腸** ）、膵臓、肝臓、肺では腺がんが多い。
- 移行上皮がんは（ **膀胱** ）、（ **尿路** ）に発生する。
- 大腸がんは、食事の（ **欧米化** ）により（ **増加** ）傾向にある。
- 大腸がんは、（ **直腸** ）に最も多く、次いでS状結腸である。
- 腫瘍による死亡数は、男性では1位（ **肺がん** ）、2位（ **胃がん** ）、3位大腸がん（2013年）である。
- 腫瘍による死亡数は、女性では1位（ **大腸がん** ）、2位（ **肺がん** ）、3位胃がん（2013年）である。